

第70回全国獣医学関係大学代表者協議会記録

日時平成11年4月5日(月)13:00~15:00

場所東京大学農学部3号館4階大会議室

出席者(会長)唐木英明(副会長)種池哲朗

(北海道大学)藤田正一、喜田宏、桑原幹典

(帯広畜産大学)白幡敏一、品川森一、佐藤基佳、宮澤清志

(岩手大学)松坂尚典、内藤善久、三宅陽一

(東京大学)土井邦雄、吉川泰弘、小野憲一郎、佐々木伸雄

(東京農工大学)田谷一善、山根義久、本多英一、金子賢一

(岐阜大学)源宣之、平井克哉、小森成一、佐々木榮英

(鳥取大学)原田悦守、島田章則

(山口大学)徳力幹彦、林俊春、高橋進、甲斐一成

(宮崎大学)永友寛司、新城敏晴、伊藤勝昭

(鹿児島大学)西尾晃、岡達三

(大阪府立大学)畑文明、澤田勉、菅野司

(酪農学園大学)森田千春、小谷忠生、加藤清雄

(北里大学)小山弘之、高瀬勝晤、天間恭介

(麻布大学)中村経紀、野村靖夫、岡俊夫、鈴木嘉彦、赤堀文昭、小林好作

(日本大学)門田定美、酒井健夫、福田陽一、長谷川篤彦

(日本獣医畜産大学)中條真二郎、高橋和明、鎌田信一

以上57名

(事務局)日本獣医畜産大学荻原茂、深浦大二郎、上原正夫

特別出席

文部省高等教育局専門教育課課長 岩本 渉

文部省高等教育局専門教育課課長補佐 石川健二

文部省高等教育局専門教育課主任 山下憲一郎

日本学術会議獣医学研究連絡委員会委員長 高橋 貢

社団法人日本獣医師会専務理事 松山 茂

唐木会長が開会を宣し、今回は文部省から岩本課長ほか3名の出席を得たことに特に感謝の意が表された後、直ちに本日の議事に入った。

議事

・前回議事録の確認について

第68回および第69回全国獣医学関係大学代表者協議会記録が確認された。

・平成10年度決算について

事務局から、平成10年度決算報告が行われ、承認された。なお、会費は納期までに納入されたい旨の要望があった。

・役員（会長・副会長）の改選および事務局の指名について

議長を小林好作副会長に交代し、本協議会規約に基き、役員の変更を行った。協議の結果、会長に東京大学唐木英明教授、副会長に酪農学園大学種池哲朗教授が選出され、以降の議事運営は新役員に引き継がれた。唐木会長は事務局を引き続き日本獣医畜産大学に依頼した。

・報告事項

- 1) 文部省高等教育局専門教育課岩元渉課長より、次のような報告および依頼があった。

国立大学に対しての行政改革について

一昨年12月の行政改革会議において、国立大学については大学改革ならびに人事・財務・会計について改革を押し進めることが決定された。また、本年1月の行政改革会議において、国立大学については平成15年度迄に特殊法人化の結論を得ることとなった。特殊法人になっても公務員の身分を保持し、国からの補助を受け、一定の目標計画を作成し、それについて中期的な評価をい、事業の継続を考えるなどが考えられているが、まだ明らかになっていない部分も多い。また、行政改革の大きな流れの一つに国家公務員の定員削減があり、教員数の削減も考えられる。

学校教育法等の一部を改正する法律案の概要並びに21世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方について

学校教育法、国立学校設置法、教育公務員特例法の改正（資料3）については、今国会に提出済みである。21世紀に向けた医師・歯科医師の育成体制の在り方（資料4）については、21世紀医学・医療懇談会第4次報告に示されている通り、大学院への早期進学特例を設けるよう大学審議会の答申が出された。同様の処置が獣医学関係についても必要か、検討を願いたい。このことについて協議の結果、学部再編入により国家試験受験資格を得られるような措置がとられるのであれば、獣医学においても医学・歯学

に歩調を合わせ、大学院への早期進学特例制度を希望することとした。

2)日本学術会議獣医学研究連絡委員会報告（委員長高橋貢）

獣医学教育の再編整備支援のために今春の獣医学会においてシンポジウムを開催したこと、今後も同様のシンポジウムを計画していること、学術会議獣医学研連からこの件で対外報告書を提出する計画であることが報告された。また、科学研究費については、平成12年度から審査の一部が学術振興会に移り、審査委員が2倍に増員される予定であることも報告された。

3)日本獣医師会報告（専務理事松山茂）

日本獣医師会は、既定の方針通り、獣医学教育の再編整備について全面的に支援する体制であること、昨年12月に文部省高等教育局長あて、獣医学教育の強化・充実に要望する文書提出したことが報告された。

4)大学基準協会報告（獣医学教育研究委員会赤堀文昭幹事）

獣医学教育の横断的評価システム〔資料5〕の構築を行っている旨報告があった。唐木会長から、このシステムは平成9年2月に決定された「獣医学教育に関する基準」に定められている事項であること、実施方法としては各大学において自己点検・評価を行い、全国協議会において相互評価を行い、最後に大学基準協会に横断的評価をお願いすることになることが予想されること、国立大学の外部評価のために第三者機関が設置される予定であること、などの補足説明があった。

5)国公立大学獣医学協議会報告（会長徳力幹彦山口大学教授）

大学再編整備については、昨年の秋以降大きな動きがあり、山口大学、宮崎大学では九州大学との交渉権を得たことなどが報告された。

6)私立獣医科大学協議会報告（会長中村経紀麻布大学学長）

臨床教育担当者会議・国際化・卒後教育の問題並びに私立獣医科大学事務連絡会の報告がなされた。また、獣医学教育基準の国際化と、獣医学部獣医学科の入学試験の状況について検討を行っていること、学納金の問題、単位互換、図書館の相互協力等について意見交換が行われた旨の報告があった。

7)宮崎大学と鹿児島大学間の獣医学教育協力について

宮崎大学伊藤勝昭教授から今年度で3年目に入る2大学間の獣医学教育協力の概要について説明があり、予算措置の継続についての依頼があった。これに関連して、唐木会長から、当面の獣医学教育充実は緊急の課題であり、他の大学においても相互協力や臨

床獣医師の応援を要望するなどの教育充実策を早急に講じ、特に5,6年生の教育を充実して、獣医学教育の社会的責任を果たすよう、強い要望があった。

・協議事項

1. 獣医学教育の改善について

1) 山口大学、宮崎大学の動きについて

唐木会長より、山口大学、宮崎大学の動きに関連して、両校の努力を高く評価すること、第68回本協議会での「本協議会は、「獣医学教育に関する基準」の速やかな実現に向けて最大限の努力をする。本協議会は「獣医学教育に関する基準」の実現のための各大学の努力を全面的に支援する。」という合意事項に沿って、協議会として2校の動きを全面的に支持し、支援することが述べられ、その他の大学も両校の成果を無駄にしないようにさらに努力されたい、との要望がなされた。さらに、このような新たな事態を踏まえて、国立大学を東西4大学ずつと北海道大学、東京大学の4ブロックに分けて教育を充実しようとする現在の方式が最も現実的なのか、ブロックの枠を超えて動きやすいところが第1陣として集まることもそろそろ考慮すべきではないか、各大学において再検討を行ってほしい旨の要望があった。

2) 北海道大学並びに東京大学の現状について

北海道大学並びに東京大学の現状について下記のとおり説明があった。

北海道大学は、教育充実について自助努力を行っている。外部評価の結果を参考にし、特に大動物臨床教育充実のために、酪農学園大学、帯広畜産大学と教育協力並びに単位互換を行いたい。この動きは当面する教育充実のためであり、再編整備とは無関係であることを強調したい。

東京大学については、自助努力を行いながら、北海道大学とも緊密な情報交換を行い、獣医学教育の基本理念、教育の改善案について共通する問題を検討する。協議内容は公開する。獣医学教育充実について、農学部長会議に働きかけを行う。

2. 入学試験科目について

2002年度入試から、医学部・歯学部においては生物が必修となり理科の科目が3科目となることから、獣医学についても検討願いたい旨意見が出され、協議を行った結果、各大学において検討願うこととなった。

. その他

1) 次回全国協議会の開催について

第71回全国協議会の日程については、次回獣医学会を主宰する(財)化学及血清療法研究所と調整を行ったうえで決定することとなった。

以上

後記

第71回全国協議会は平成11年10月12日、熊本において開催することとした。